



シラバス参照

タイトル「2014年度 経済学部シラバス」、フォルダ「2014年度 経済学部シラバス-専門科目（経済学科開設科目）」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	労使関係論		
担当教員	岡田 真理子		
対象学年		クラス	E1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	金 5	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	標準履修年次 3・4年生		
科目名 (英語表記)	Industrial Relations		
開設学科	経済学科		
研究室			
オフィスアワー			
授業の概要	<p>本講義は、労使関係の基本的理論を解説し、そのうえで日本における労使関係の具体例をみていくことによって労使関係のもつ機能・役割と抱える問題について考察する。</p> <p>労働組合組織率の低下に連動して、労使関係が働く現場において及ぼす影響は少なくなっているかのように見える。しかし、労働組合組織率が低い現在だからこそ労使関係のありかたを詳細に理解することで、労使関係が職場において果たす役割を認識することが可能となる。</p> <p>以上のような観点から、受講者には近い将来自らも関係する重要な制度的枠組として労使関係をとらえることで講義内容を身近に理解してもらいたい。</p>		
授業計画	回	内容	
	1	ガイダンス	
	2	社会科学としての労使関係論	
	3	労使関係論の理論的枠組	
	4	レベル別の労使関係(1) - 全国レベル	
	5	レベル別の労使関係(2) - 産業別レベル	
	6	レベル別の労使関係(3) - 企業別レベル①	
	7	レベル別の労使関係(4) - 企業別レベル②	
	8	労働組合の機能(1)	
	9	労働組合の機能(2)	
	10	変化する日本の労使関係(1) - 人事管理の変化	
	11	変化する日本の労使関係(2) - 雇用形態の多様化	
	12	公務部門の労使関係	
	13	労使関係論問題演習(1) - 問題の検討	
	14	労使関係論問題演習(2) - 問題の分析	
	15	労使関係論問題演習(3) - 問題への対応策提示	
	労使関係について基本的な理論を理解し、その理解のうえにたつて日本の労使関係のもつ問題点を発見でき、問題を分		

到達目標	析でき、分析結果から問題への対応策を提示できる。
成績評価方法	授業中に配布するワークシートへの回答と提出(2×10=20点)と、授業期間終盤に行う労使関係に関する事例の検討と対応策提示についてのグループワーク報告レポート(20点)、及び期末試験(60点)によって評価する。
教科書	授業中にレジュメと資料を配布する。
参考書	白井泰四郎『労使関係論』(日本労働協会 1989) 兵藤釗『労働の戦後史』上巻・下巻(東京大学出版会 1997) 厚生労働省『資料 労働運動史』各年版
授業時間外学習	本演習の授業計画に沿って、準備学習と復習を行うこと。さらに、授業内容に関連する調査・考察を含めて毎回の授業ごとに自主的な学修を求める。
受講を推奨する関連科目	労働経済論、労働史(戦後期)、社会政策、社会保障論、雇用関係法、雇用政策法
履修上の注意・メッセージ	労使関係に関する話題はみなさんが思っている以上に新聞やニュースなどで取り上げられています。日頃からそのような報道に敏感でいるようにしてください。

